

まちかど

アルバム

親子で楽しく仲よく 交通ルールを勉強

幸町

2月11日(土)、鳥取市中央
権福祉センターで、鳥取市交通
安全保護者の会連合協議会主催
の親子研修会が行われ、市内の



親子116人が参加しました。講師は、鳥取市男性
保育士会「ジャングル☆ジム」のみなさん。明るく
軽快な音楽を奏でながら、子どもの健康づくりのた
めの遊びを実践。参加者と一緒に楽しみながら、信
号のルールなどを伝えました。子どもたちは、講師
の動きに合わせて手をたたいたり、ジャンプしたり
と、元気いっぱい体を動かし、時折、様子を見守
る家族の方を振り返り、満面の笑みで楽しさを伝え
ていました。研修会のクライマックスには、ビニール
袋の中に風船を詰めて作った「スーパーはくと」が
登場。大人も子どもも一緒になって、風船列車を会



場全体に走ら
せました。「凄
かった」、「楽
しかった」と、
子どもたちが
らは大変好評
で、保護者も、
「保育士のみ
なさんの体を
張った演技が
よかった」、「子
どもが楽しそ
うで何より」
と、子どもた
ちの顔を見て
微笑んでいま
した。



伝統行事で無病息災を祈願

気高町酒津

国の重要無形民俗文化財として指定
されている「酒津のトンドウ」が、1
月14日(土)から15日(日)早朝にか
けて行われ、一年の無病息災や豊漁な
どを祈願しました。初日、子どもたち
が海岸に出てモクと呼ばれる海草を拾
い、海水につけてぐるぐる振り回し
ながら体を清め、「ワッショイ、ワッシ
ョイ」の掛け声とともに地区内の家を
清めてまわりました。見物客は、パン
ツ一枚でかきまわる子どもたちに大き
な声援を送りました。2日目の午前5
時にトンドウに火が入られ、大きな
火柱が真っ暗な夜空を焦がしました。

節分・豆まき・オニ退治

鹿野町鹿野

2月5日(日)、いんしゅう鹿野まち
づくり協議会主催のオニ退治が行われ
ました。参加した子どもたちはオニと
戦う武器やお面を製作後、会場へ移動。
そこへ「ウォーツ」と威勢のいいかけ
声とともにオニの集団が登場しました。
子どもたちは、泣き叫んだり走って逃
げたりしましたが、勇気をふりしぼっ
て武器で応戦。オニはたまたまらず退散し
ましたが、子どもたちは逃げるオニを
追いかけていました。威勢の良かった
オニは、子どもたちの気合の前に敗北。
最後は福(お菓子)のおすそ分けがあり、
みんな笑顔で家路につきました。



オリジナルのものづくり 挑戦

吉方温泉二丁目

1月21日(土)、鳥取市文化センターで因幡冬の手づくりまつりが行われました。これは、ものづくり協力会議と鳥取大学が主催する、子どもにもものづくりの知恵や面白さに接してもらおうための取り組みです。子どもたちは、鳥取大学の学生と地域のボランティアに教えてもらいながら、木のくるまや紙竹とんぼなどのものづくりに挑戦。慣れない小刀や機械の操作に苦戦しながらも、懸命に作業を進めました。キーホルダーを製作した子どもは、「ランドセルにつけます」と、その出来栄に大満足の表情でした。

お茶をどうぞ

河原町長瀬

1月12日(木)、河原あゆっこ園で新年のお茶会が行われ、裏千家の前田康子さん指導のもと、幼稚園児たちが抹茶のおはこびに挑戦しました。園児たちは「あいさつを心がける」、「姿勢をまっすくに」と、お茶の心構えや作法を教わった後、訪れたお客様へ茶菓子と抹茶を運びました。普段の元気いっぱいに遊んでいる姿とは一転、指先をきちんとそろえて茶わんを持ち、お客様においしく飲んでいただくよう一生懸命おはこびする姿に、園児たちの成長が感じられました。春には小学生、今後の成長が楽しみです。



伝統行事を支える流しびな づくり

用瀬町用瀬

江戸時代から続く用瀬の伝統「流しびな行事」。3月24日(土)の開催を前に地元グループ「ときわ流しびなの会」のみなさんが流しびなづくりに追われています。今年は例年の2倍以上の注文が入り、約1,200個の流しびなをメンバー13人で製作。全ての工程が手作りで、特に紙びなをのせる棧俵さんたわらを編むのは、腰を曲げた体勢で全身の力を使う重労働ですが、一つひとついねいに作られたお雛さまは愛らしい表情をしています。厳しい寒さが続く中でこの作業ですが、流しびなの仕上がりとともに少しずつ春が近づいてきます。

初めて知った節分

佐治町福園

2月1日(水)、佐治地区公民館主催の「民俗行事 節分を体験しよう」が小学校5、6年生を対象に佐治町歴史民俗資料館で開かれました。さじ谷話を保存・伝承する「さじ民話会」にご協力いただき、節分行事の意味や今年の恵方、節分に関する風習などを学習。イワシの頭を柎うしに刺した魔除けの「あー痛あー臭」を作ったり、田楽や歳の数より一つ多い豆を食べたりすることなど、知らなかったことも多かったようです。「家族にも教えてあげる」、「家でも同じようにしたい」と、子どもたちはとても嬉しそうでした。

